

いばらきネットモニター 臓器提供・臓器移植についてのアンケート結果

1 調査目的

臓器提供・臓器移植に関する県民等の意識を調査し、今後の普及啓発事業を検討する上で参考とするために実施しました。

2 結果の概要

- ・臓器提供に関する意思表示方法の認知度として、運転免許証が最も高く 87.5%であり、マイナンバーカード、臓器提供意思表示カードの認知度も 5 割程度と、前回の調査結果（令和 5 年実施：運転免許証 71.7%、マイナンバーカード 34.5%、臓器提供意思表示カード 43.8%）と比較して向上がみられた。
- ・臓器提供に関して意思表示（記入）をしている人は 31.8%であり、前回の調査結果（31.2%）と比較して横ばいであった。
- ・意思表示（記入）していない理由として多かったのは、「自分の意思が決まらない、あるいは、後で記入しようと思っていた」、「臓器提供に抵抗感がある」であり、回答の傾向は前回と同様であった。
- ・意思表示をする人を増やすための必要な取組については、「様々な機会での詳しい情報提供」、「教育現場での啓発活動」、「マイナンバーカードや運転免許証更新などの際に情報提供」などの意見が多くみられた。
- ・今回のアンケート結果を基に、臓器提供・臓器移植に関する知識の普及や意思表示についての情報発信など、広く県民に周知できるよう取り組んでいく。

○ 臓器提供とは

脳死後あるいは心臓が停止した死後に、臓器移植を待つ人に臓器を提供することです。

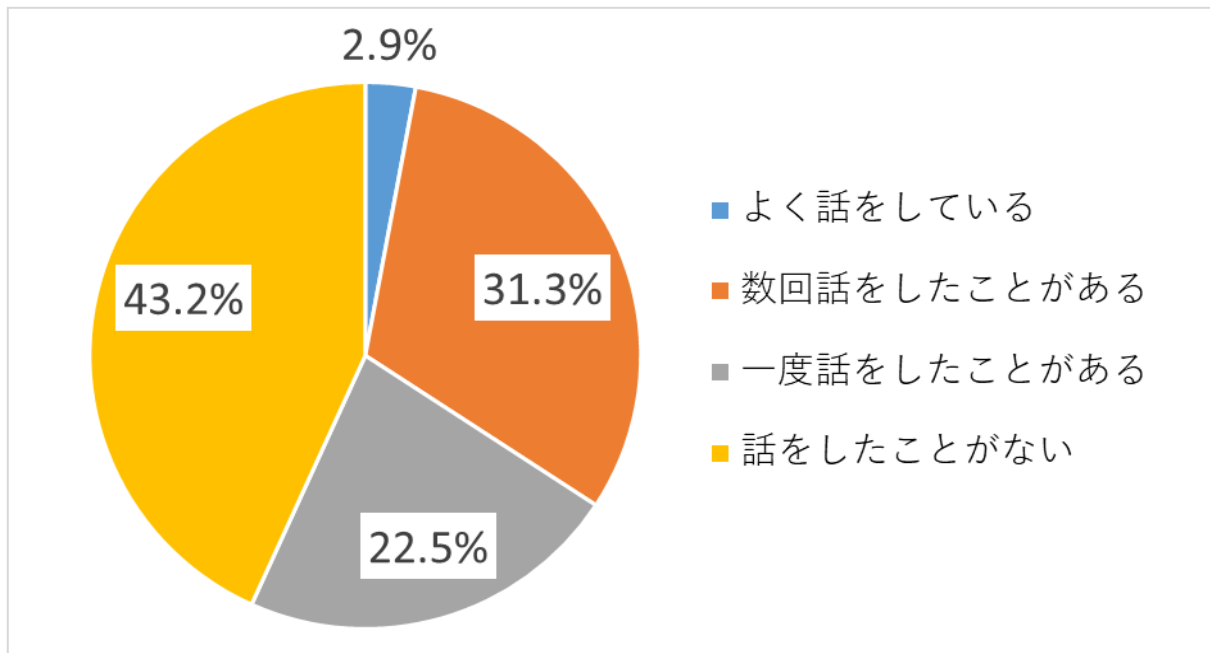
○ 臓器移植とは

病気や事故によって臓器の機能が低下し、移植でしか治らない人に、他の人の臓器を移植し、健康を回復する医療です。

【問1】（家族などと臓器提供・臓器移植について話をした経験の有無）

あなたは、これまでにご家族や親しい方と、臓器提供や臓器移植について話をしたことがありますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,122)

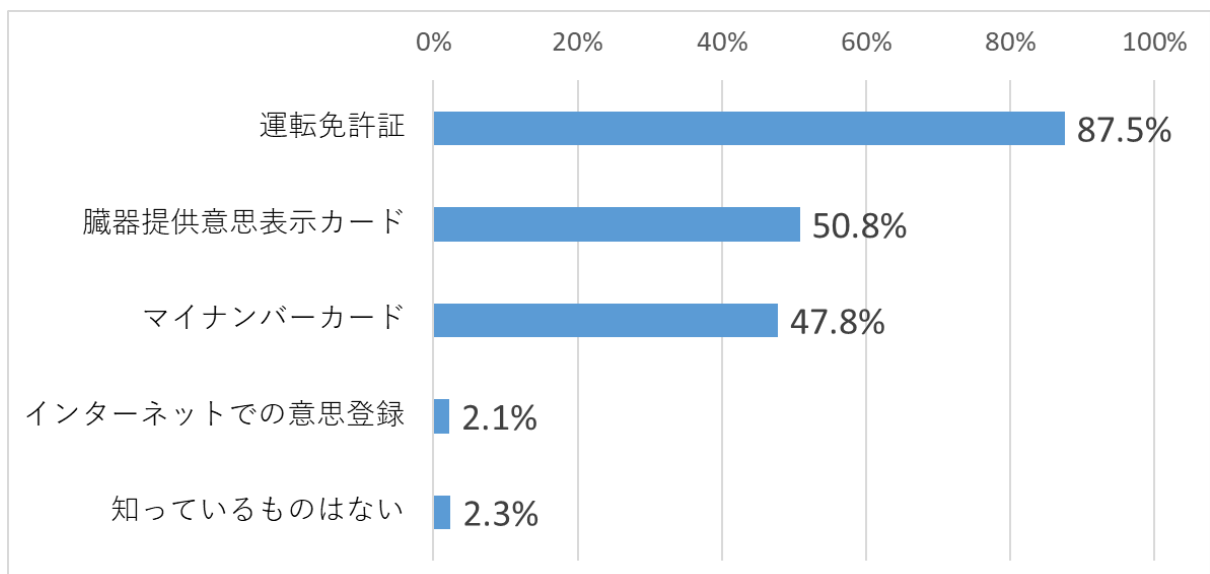


- 臓器提供や臓器移植について、「よく話をしている」(2.9%)、「数回話をしたことがある」(31.3%)、「一度話をしたことがある」(22.5%)を合わせた【話したことがある】と回答した割合は 56.7%で、うち複数回話したことがあると回答した割合は 34.2%であった。
- 臓器提供や臓器移植について、「話をしたことがない」と回答した割合は 43.2%であった。

【問2】（臓器提供に関する意思表示方法の認知度）

あなたが、「臓器を提供する・しない」についての意思表示方法のうち、知っているものは何ですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,122)

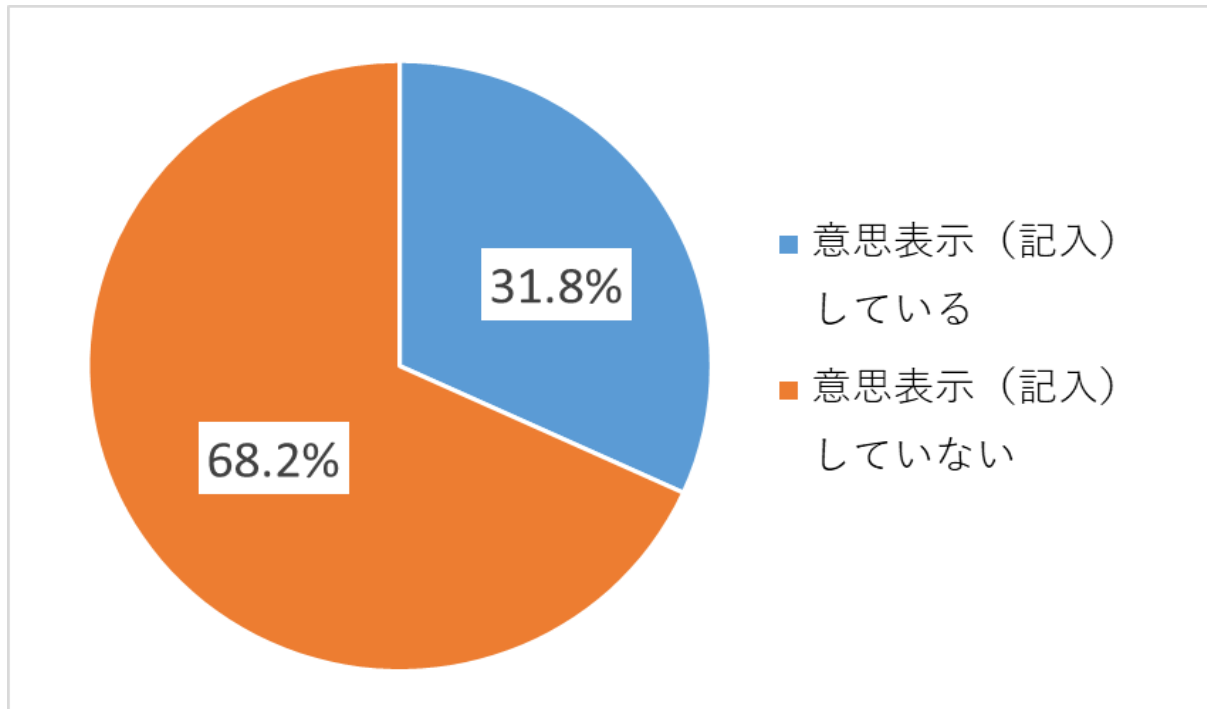


- 「運転免許証」での意思表示方法の認知度が 87.5%で、最も多かった。
- 「臓器提供意思表示カード」(50.8%)、「マイナンバーカード」(47.8%)の認知度は、どちらも約 5 割であった。

【問3】（臓器提供に関する意思表示）

あなたは、問2の意思表示方法のいずれかの方法で、「臓器提供をする・しない」といった意思表示(記入)をしていますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,122)

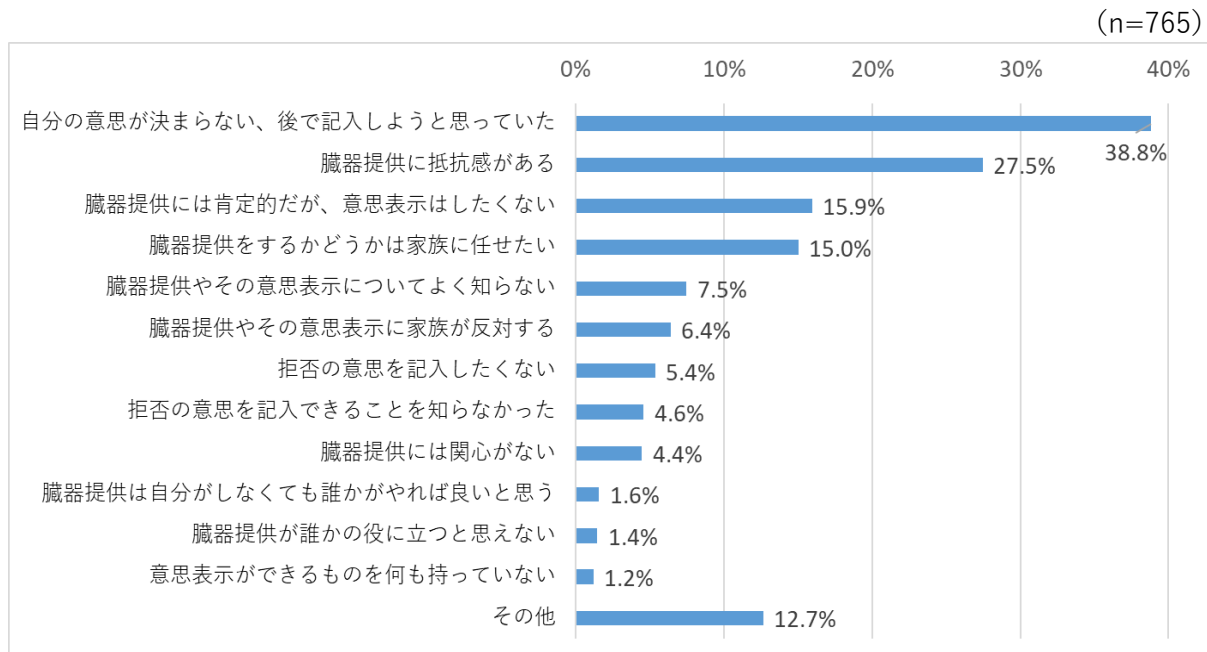


- 「意思表示（記入）している」と回答した割合は 31.8%、「意思表示（記入）していない」と回答した割合が 68.2%であった。

【問4】（臓器提供の意思表示をしない理由）

（問3で「2 意思表示（記入）していない」を選択した方へ）

あなたが、臓器提供の意思表示をしていない理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

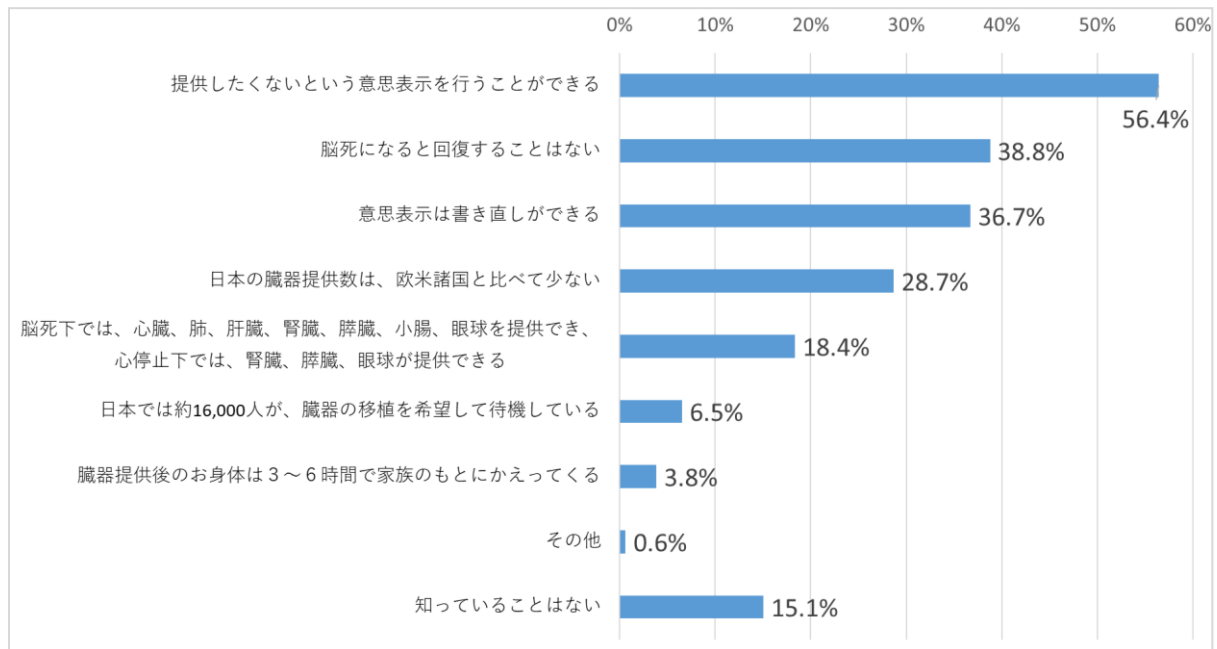


- 意思表示（記入）していない理由としては、「自分の意思が決まらない、あるいは後で記入しようと思っていた」が38.8%と最も多く、次いで「臓器提供に抵抗感がある」が27.5%であった。「臓器提供には肯定的だが、意思表示はしたくない」と「臓器提供をするかどうかは家族に任せたい」が15%程度であった。
- 「臓器提供には肯定的だが、意思表示はしたくない」（15.9%）、「臓器提供をするかどうかは家族に任せたい」（15.0%）、「家族が反対する」（6.4%）のような、自分の意思表示をすることへの抵抗感や、判断を家族に委ねたいとする回答もあった。
- その他(12.7%)として、次のような意見が挙げられた。（計 97 件）
 - ・ 年齢や持病により提供できないと思う
 - ・ 提供後のご遺体がどうなるか心配
 - ・ 自分事として考えられない

【問5】（臓器提供に関する知識）

あなたが、臓器提供について知っていることは何ですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,122)

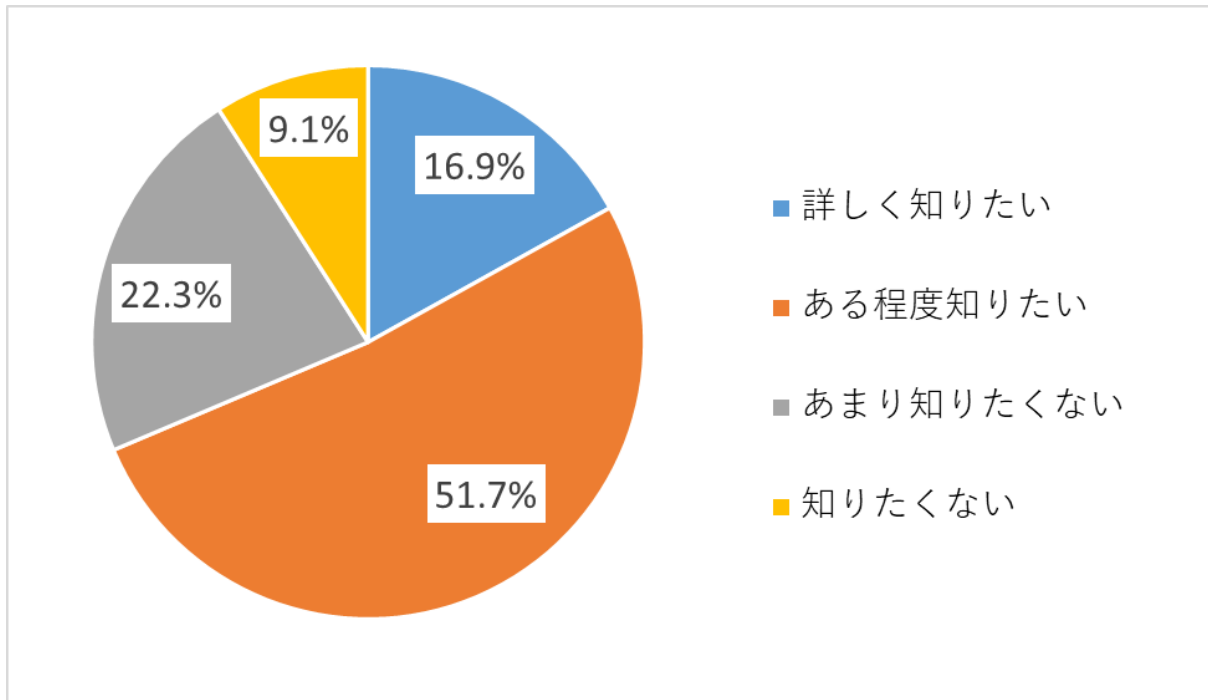


- 臓器提供について知っていることとしては、「提供したくないという意思表示を行うことができる」が 56.4%で最も多く、次いで「脳死になると回復することはない」が 38.8%、「意思表示は書き直しができる」が 36.7%であった。
- 臓器提供について、「知っていることはない」と回答した割合は 15.1%であった。
- 「その他」(0.6%)として、次のような意見が挙げられた。(計 7 件)
 - ・ 高齢でも眼球の提供ができる
 - ・ 「臓器提供」は「献体」ではない

【問 6】（入院時における臓器提供に関する情報の希望）

茨城県内の一部の病院では、入院した患者全員に対して、パンフレットの配布などの臓器提供に関する情報提供を行っています。あなたは、ご自身やご家族が入院した際、臓器提供に関する情報をどの程度知りたいと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,122)

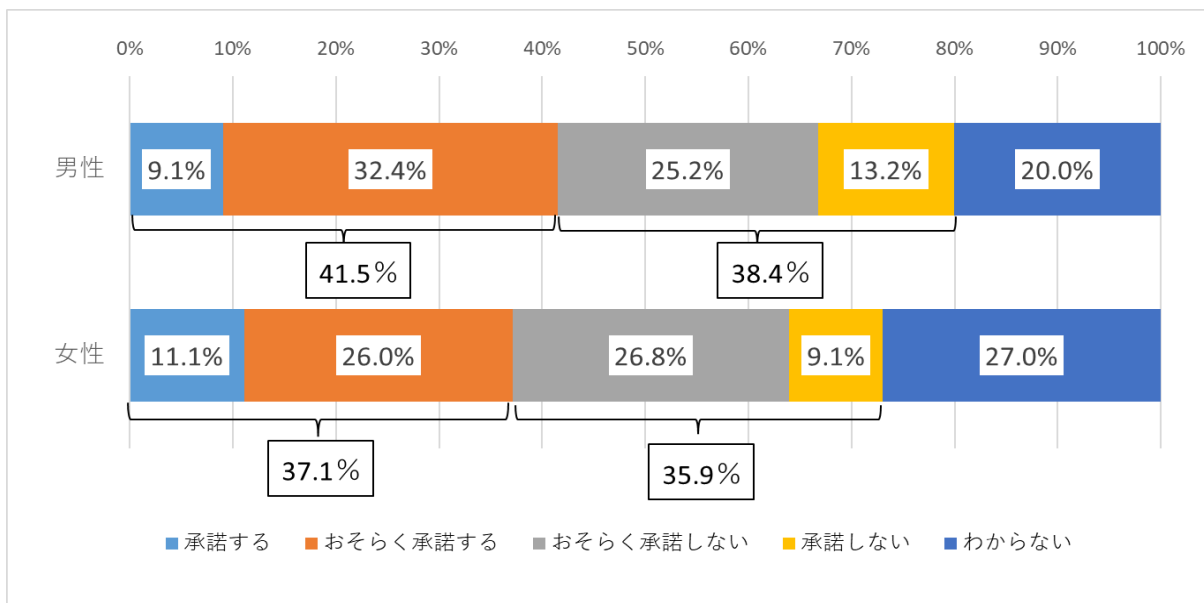
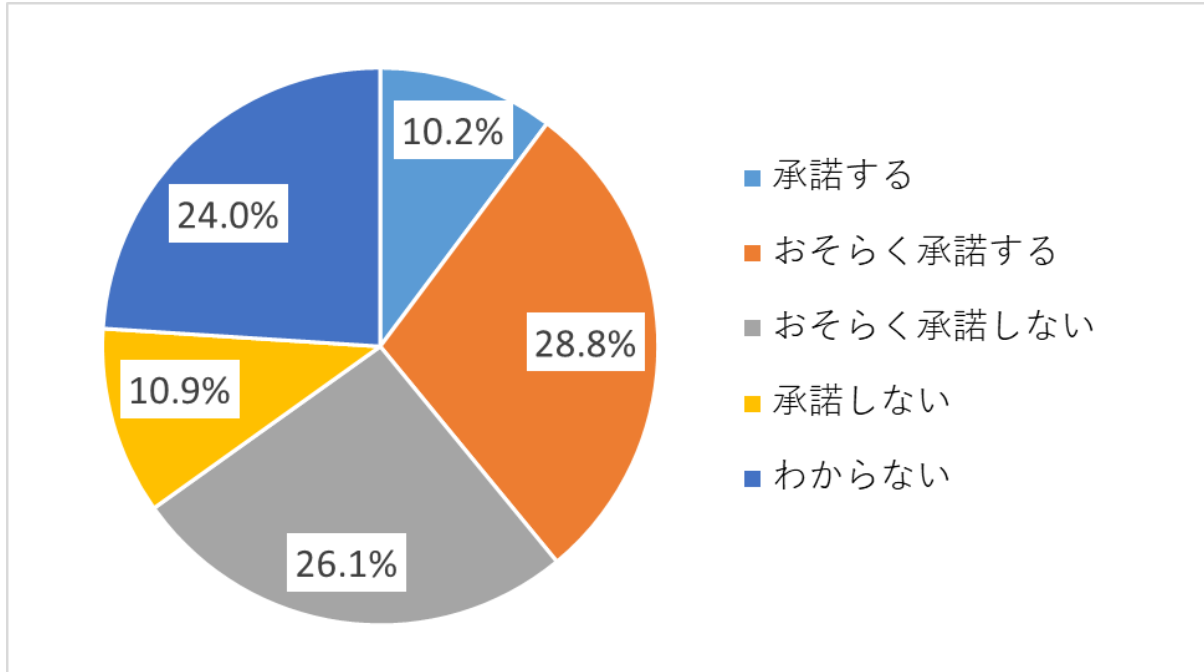


- 自身や家族が入院した際、臓器提供に関する情報をどの程度知りたいかについて、「詳しく知りたい」(16.9%)、「ある程度知りたい」(51.7%)を合わせた【知りたい】と回答した割合が約7割であった。

【問 7】（家族が提供意思を表示していなかった場合の臓器提供の承諾）

仮に、あなたのご家族が脳死と判定された場合、または心臓が停止し死亡と判断された場合に、その方が臓器提供について意思表示をしていなかったときは、臓器提供を承諾するかどうかはご家族の総意で決まります。あなたは、ご家族の臓器提供を承諾しますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,122)



- 家族が意思表示をしていなかった場合の臓器提供について、「承諾する」「おそらく承諾する」を合わせた【承諾する】が男性 41.5%、女性 37.1%、「承諾しない」「おそらく承諾しない」を合わせた【承諾しない】が男性 38.4%、女性 35.9%と、【承諾する】と【承諾しない】はほぼ同率となった。また、男女差もあまりみられなかった。
- 「わからない」と回答した割合は、男性 20.0%、女性 27.0%であった。

【問8】（自由記述）

その他、「臓器提供をする・しない」の意思表示をする人を増やすために必要な取組について、ご意見等がございましたら、ご自由に記入してください。（200 文字以内）

- ・学校や職場、病院での啓蒙活動。実際に臓器提供を受けた人、提供した人の話を見聞きする機会があると良いと思います。
- ・意思表示をすること自体ハードルが高いと思っています。ですが、判断材料として、常に情報は取り入れたいとは思っているので、色々な場面で情報提供していただきたい。文化的に日本では抵抗がある方が多いと思うので、学校教育とかに取り入れていくのも良いのかと思います。
- ・「臓器提供をする」ことは社会的に正しいことかもしれませんが、自分や家族が死んだ後に改めて身体に傷を付ける行為に抵抗を感じます。臓器提供をしないことについて引け目は感じないし、逆に臓器提供をする方に対する抵抗感ありませんが、臓器提供を推進する取組に対してはすこし息苦しさを覚えます。「正しい方向はこちらです」と言われても、そちらに行きたくない場合の窮屈さに近いかもしれません。
- ・「前向きな選択」として、家族と話し合っておくことが必要だと思います。免許更新の際などでパンフレットがあれば、話すきっかけになるかも知れません。
- ・臓器提供の意思を表示できる、ということすら知らない人も少なからずいると思うので、会計時に受け取る伝票の片隅にお知らせを記載する等。それ以外には、薬局やコンビニなど、一般でも目に入りそうな所にポスターを張ったり、チラシを渡すなどで周知するのが良いと思う。また、YouTube や TikTok など、短めの動画 CM で目に入る機会が多くなれば、話題に上がりやすくなり、考える良い契機にもなるのでは。
- ・私の臓器は提供しても構わないのですが、意思表示していない家族の臓器を提供することは難しい。（意思表示してあれば提供すると思います）
- ・臓器提供をした後、残された家族が私の遺体に接してどのような気持ちになるのかを想像できないのが、臓器提供の意思を明確にできない大きな理由のひとつです。検体と臓器提供は全くちがうものと頭では理解していますが、臓器提供後家族の元に戻ってきた遺体の外観がどのように変わるのか、見た目の変化はないのか、など詳細な情報提供をしていただくと安心感につながり、臓器提供の意思表示をする後押しになるように感じます。
- ・普及啓発のために、知る「きっかけ」が大事ですが、特に若いときに学校で情報に触れるのが有効かと思います。私は、高校時代の先生が授業中にドナー提供の話をしていたことが、大人になってからも記憶に濃く、30 歳頃に臓器提供の意思表示をし始めました。このアンケートをきっかけに、家族とも話したいです。
- ・臓器提供や臓器移植について関心がなかったので、何も意思表示していません。年齢的にどうなのかなど、わからないことが多いので、詳しい情報がわかると良いと思いました。

など 416 件の意見があった。

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

- ・臓器提供の意思表示について、意思表示方法として最も知られているものは「運転免許証」であり、87.5%の人が知っているという回答していた。しかし、「臓器提供をする・しない」の意思表示をしている人の割合は 31.8%であり、意思表示の方法は知っているが、意思表示をしていない人が 5 割以上いることがわかった。
- ・問 8 では、移植医療に関して知らないこと、わからないことがあるために、意思表示が進まないのではないか、といった内容のご意見があり、問 4 の臓器提供意思表示をしていない人のうち、「自分の意思が決まらない、後で記入しようと思っていた」(38.8%)、「臓器提供に抵抗感がある」(27.5%) などの意見の理由には、移植医療に対しての関心や知識が少ないことが背景にあると考えられる。
- ・臓器提供の意思表示をする人を増やすためには、普及啓発により移植医療への関心を高め、知識を周知することが重要と考えられることから、イベントなどの機会での普及啓発や、ホームページや SNS、ラジオなどの各種広報媒体を活用した周知を強化していく必要がある。
- ・また、学校の授業で取り上げてはどうかといったご意見もあった。県内では、公益財団法人いばらき腎臓財団が、主に若年層を対象に学校等で移植医療をテーマとした学習の機会として「いのちの学習会」を実施しているため、これらを活用いただくよう周知を図るなど、教育の現場における普及啓発を図っていきたい。
- ・さらに、臓器提供の意思表示をしない理由として、「臓器提供をするかどうかは家族に任せたい」と答えた人が 16.2%、「家族が反対する」が 6.4%と、家族の考えを挙げる人がいる一方、家族が提供意思を表示していなかった場合、「承諾する」「おそらく承諾する」が 39.0%、「承諾しない」「おそらく承諾しない」が 37.0%と大きな差はなく、また 24.0%の人が「わからない」と回答している。
- ・自分は提供してもいいが家族の提供となると考えてしまうというご意見もあり、家族などと一緒にでも臓器提供・臓器移植について話をしたことがある人は約 6 割、話したことがない人は約 4 割となっていた。
- ・臓器提供では本人の意思はもちろんのこと、家族の意向も重要であることから、移植医療について、家族や大切な人と話し合うという意識醸成を図っていく。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調 査 時 期：2025 年 10 月 16 日 ～ 2025 年 10 月 29 日

調 査 方 法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モ ニ タ ー 数：1,651 名

回 収 率：68.0%（回収数 1,122 名）

回答者の属性：以下の通り

		人数（人）	割合（%）
全体（n）		1,122	100.0
地域別	県北	92	8.2
	県央	369	32.9
	鹿行	51	4.5
	県南	354	31.6
	県西	79	7.0
	県外	177	15.8
性別	男性	484	43.1
	女性	638	56.9
年齢別	16～19 歳	6	0.5
	20～29 歳	47	4.2
	30～39 歳	146	13.0
	40～49 歳	278	24.8
	50～59 歳	299	26.6
	60～69 歳	224	20.0
	70 歳以上	122	10.9
職業別	自営業	79	7.0
	会社員	417	37.2
	団体職員	51	4.5
	公務員	60	5.3
	主婦・主夫	234	20.9
	学生	20	1.8
	無職	139	12.4
	その他	122	10.9

(2) 担当課

茨城県保健医療部医療局薬務課（企画調整グループ）

電話：029-301-3384

E-mail：yakumu@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第 2 位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の割合の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。

また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。